

11	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	16101005	災害時コンビナート機能維持のための高度安全制御統合化環境の構築	井上 昭(岡山大学・大学院自然科学研究科(工学系)・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>研究状況報告書では、個別研究課題については、かなりの研究成果が上がっているものと認められたが、全体目標に向けた統合化努力がなされている旨の記述がなく、災害時コンビナート機能維持のための高度安全制御統合化環境構築に関する研究進捗状況について評価が困難であった。そこで現地調査により研究の進捗状況、全体目標と個別研究課題との関係、統合化に向けての活動状況、結果の活用方法の見通しなどについて、詳細にヒアリングを行った。</p> <p>その現地調査において、研究目的やその達成方法、個別研究成果と全体目標との関連について非常にわかりやすい説明がなされ、また質問事項に対しても、その全体フレームワークに則って的確に回答がなされ、懸念された全体的な研究成果の統合化の方針についてチームから明確な回答が得られた。特に、マルチエージェントモデルによる高度安全制御統合化環境の構築手法の提案は、研究状況報告書には記載されていなかったが、その後研究代表者によってサブテーマ間での有機的結合を高める努力がなされ、その結果として課題全体で組織的にも内容的にも有機的結合が図られるようになってきたものと推察される。個別の研究成果を積み上げるのと平行して、本研究プロジェクトの全体目標の達成に向けて、今回説明されたマルチエージェントモデルを通した各種要素技術の統合化作業を今後とも継続することにより、本研究の最終目標である災害時にもコンビナートの機能維持を可能とする「高度安全制御統合化環境の構築」を達成できるものと期待される。</p>				
12	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	16101006	癌における転写ネットワーク変異の体系的解明	油谷 浩幸(東京大学・国際・産学協同研究センター・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、少量の臨床検体から網羅的に遺伝子レベルの解析を行うことによってがん化過程の解明を目指す。そのために、肺扁平上皮がんを中心にがんの発現プロファイルの解析を行いつつ、がん細胞のゲノム情報をより的確に掴むために、ゲノムの変異とメチル化の検出のための新規解析技術の開発を進めている。現在、研究は順調に展開中であり、十分な成果も上がりつつある。</p> <p>今後、新技術の創出によって遺伝子発現プロファイル解析の限界を乗り越え、より正確ながんの予後判定技術の確立とがん化のプロセスの解明への新たな突破口が開かれることを期待したい。</p>				